

所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻 修士課程	修了年度	平成 24 年度
氏名	柳賢ジョン	指導教員	池田広子

論文題目	<p style="text-align: center;">韓国の民間日本語教育機関における日本語漢字教育の実態</p> <p style="text-align: center;">—M-GTAによる日本語講師インタビュー結果分析—</p>
------	--

本文概要

1. 研究目的と背景

本論文は韓国における民間日本語教育機関の教師を対象とし、韓国国内の実態と日本語教師の意識を明らかにすることを目的としたものである。韓国人日本語学習者の日本語を妨げる要因として、「漢字学習への忌避」が全体の4割を占めていることが報告されている。また、日本語教師の漢字指導に対する意識も必要だと言われている。韓国人日本語学習者は日本語の漢字習得について、どのような点で困難を感じているのだろうか、また韓国の民間日本語教育機関における日本語教師は漢字に対してどのように考えているのだろうか。このような問題意識から実態を把握することを目指した。

2. 研究方法

調査対象は、韓国における民間日本語教育機関の教師10名である。2012年5～9月にかけて教師と1対1で面談し、研究協力の承諾を得た上で半構造化インタビューを実施した（一人約60分）。データはレコーダーに録音し、全て文字起こしした。韓国語で文字起こしをした後、日本語に翻訳し、2言語のデータを作成した。補助データは授業観察の記録ノートである。分析方法は、質的分析法の修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（以下M-GTA 木下2003）を採用し、この手順に従って分析を行った。

3. 分析結果と考察

分析の結果、5つのカテゴリー（外的環境、学習者の要因、教師の要因、教師の葛藤、指導法）、31の概念が包摂された。概念図（漢字指導に対する教師の姿勢の背景）とストーリーラインを基に以下のことが明らかになった。

第一に、民間日本語教育機関は、教師主導のカリキュラム作成があり、高等学校、大学とは異なる。経営と深く関係があり、学習者ニーズを配慮し、会話中心のクラス編成になる傾向がある。第二に、民間日本語教育機関における日本語漢字指導は、「短時間の指導」あるいは「漢字指導をしていない」ことが多い点である。第三に、教師側から見た学生の漢字認識として、①漢字をあまり使用しない環境なので、漢字に触れる機会が少なく、漢字の概念や知識が不足している。②読み方が多様で覚えきれていない点を確認された。第四に、教師自身の漢字学習の体験が教師の指導法にも影響を与えていたことである。つまり、教師の漢字に対する学習観が教授観に移行していることが確認された。

以上の実態をさらに解明するために、民間日本語教育機関のシステムと指導法の点から考察した。考察では、(1)学生の認識（「漢字は難しい」、「必要性を感じない」）が、最終的に教師のカリキュラム作成に反映されている(2)教師の学習ストラテジーやビリーフが漢字の指導法に影響することを示唆した。

4. 今後の課題

本研究は韓国における漢字教育の実態調査を民間日本語教育に絞って実施した。民間日本語教育機関の教師の語りを記述し分析することで、実態だけでなく現場で生じている問題の原因や課題を示唆することができた。今後は、教師や学生の認識に焦点を当て、教師と学習者ビリーフの観点から追求し、より具体的に示す必要がある。今後の課題としたい。